

2005年10月19日20時44分頃の茨城県沖の地震について

茨城県南部で震度5弱

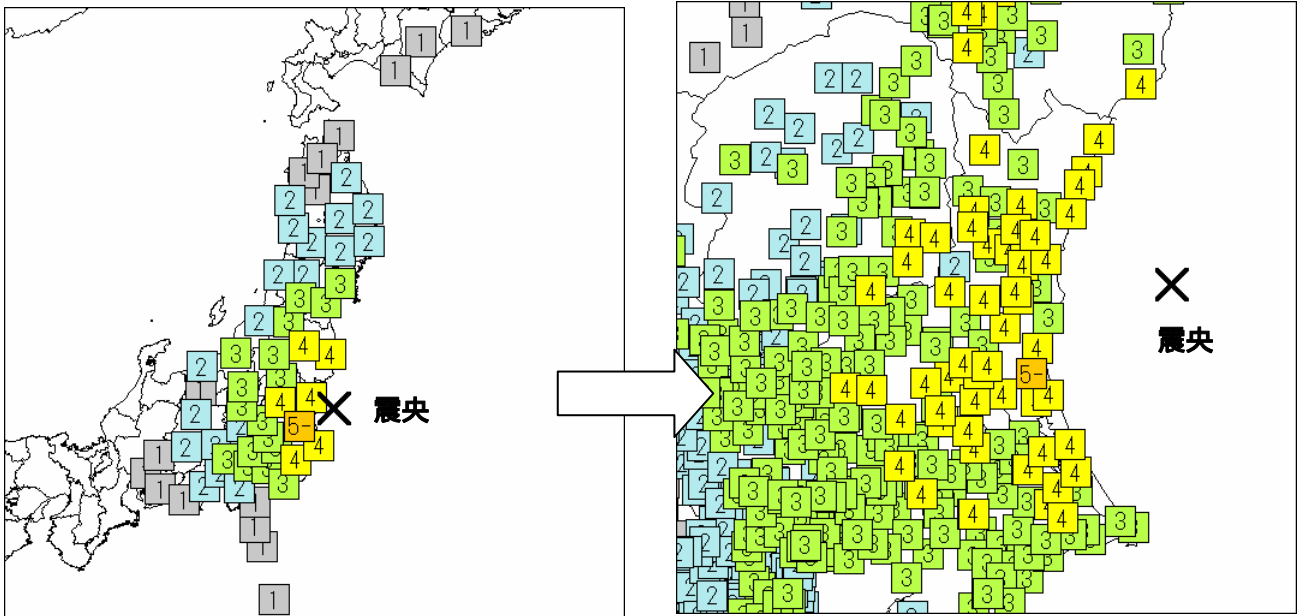
10月19日20時44分頃、茨城県沖の深さ約48kmで、M6.3(暫定値)の地震がありました。この地震により、茨城県鉾田市(ほこたし;(旧)鉾田町^注)で震度5弱を観測したほか、関東地方を中心に、北海道から中部地方の一部にかけて震度4～1を観測しました。この地震による津波の心配はありません。

この地震の発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられます。

22時00分現在、震度1以上を観測した余震はありません。

なお、茨城県で震度5弱以上を観測したのは、2005年8月16日に発生した宮城県沖の地震(M7.2)で震度5弱を観測して以来です。また、茨城県沖の地震で震度5弱以上を観測したのは、2002年2月12日のM5.7の地震で茨城県城里町(しろさとまち)と常陸太田市(ひたちおおたし)で震度5弱を観測して以来です。

注：地震情報では、旧市町村名称による観測点名称「鉾田町鉾田」として発表しています。

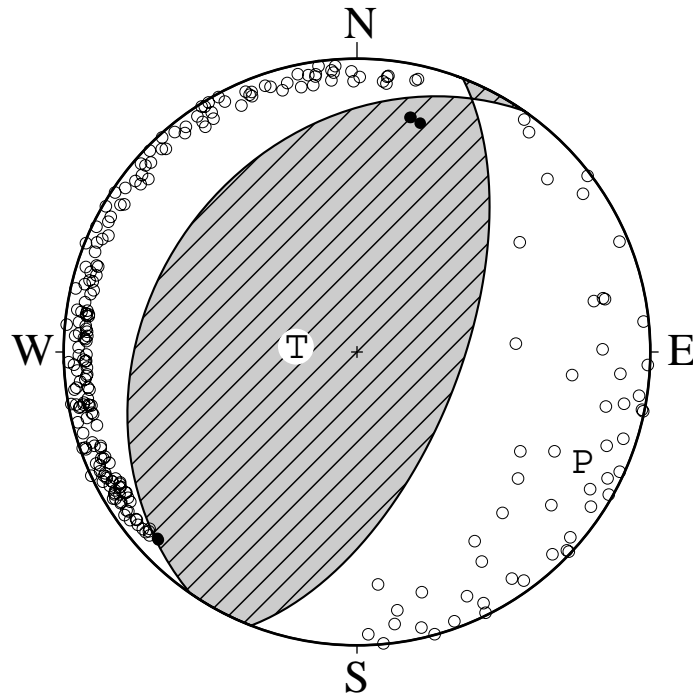


各地域の震度分布図

各観測点の震度分布図(震央近傍を拡大)

発震機構解 [初動解] (暫定)

2005/10/19 20:44



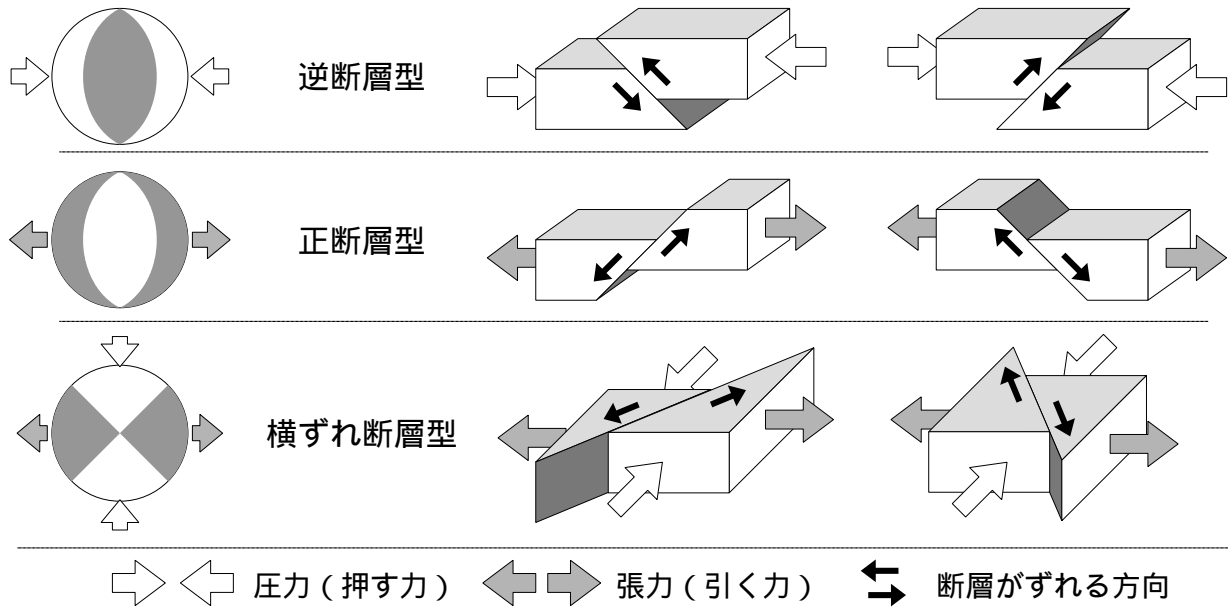
西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

は初動が上向きの観測点、 は初動が下向きの観測点を示す。
Pは圧力軸、Tは張力軸の方向を示す。(下半球等積投影)

発震機構解 [初動解] について

地震波の初動方向は、地震時に働く力の向きにより異なります。
また、地震時に働く力の向きは、断層の型により異なります。
発震機構解は、これらの性質を用いて地震の初動方向から断層面を推定するものです。

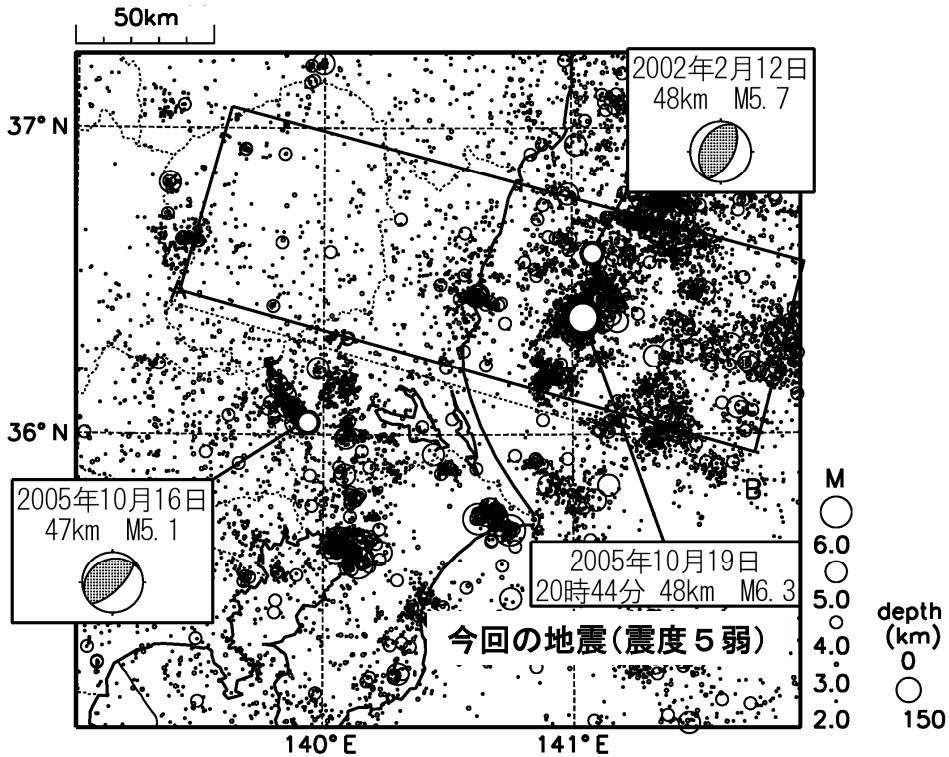
以下に、発震機構解と断層の型の対応関係の典型的な例を示します。



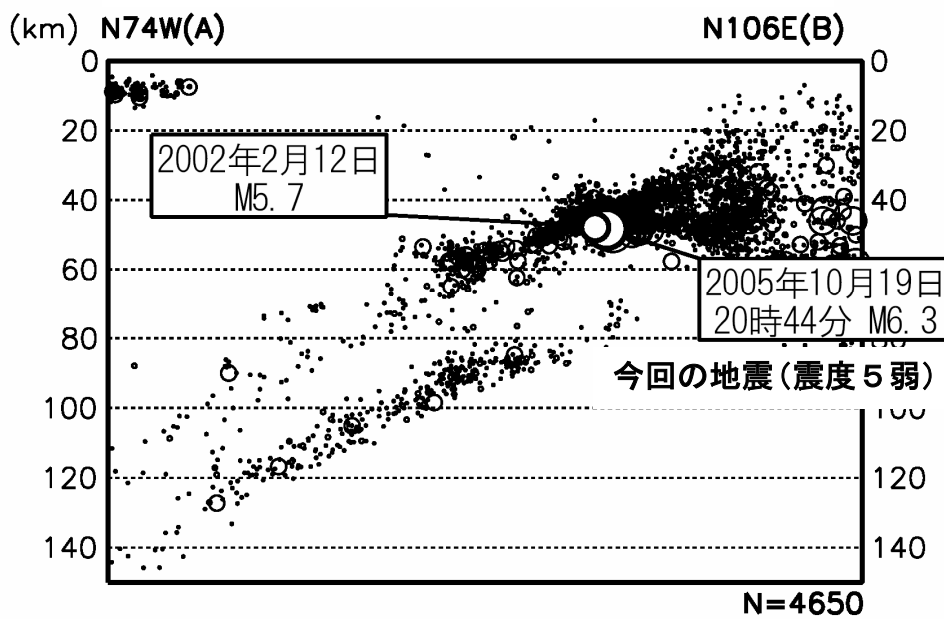
2005年10月19日 茨城県沖の地震 (発生場所の詳細)

震央分布図

(1997年10月1日～2005年10月19日21時、深さ150km以浅、M2.0以上)



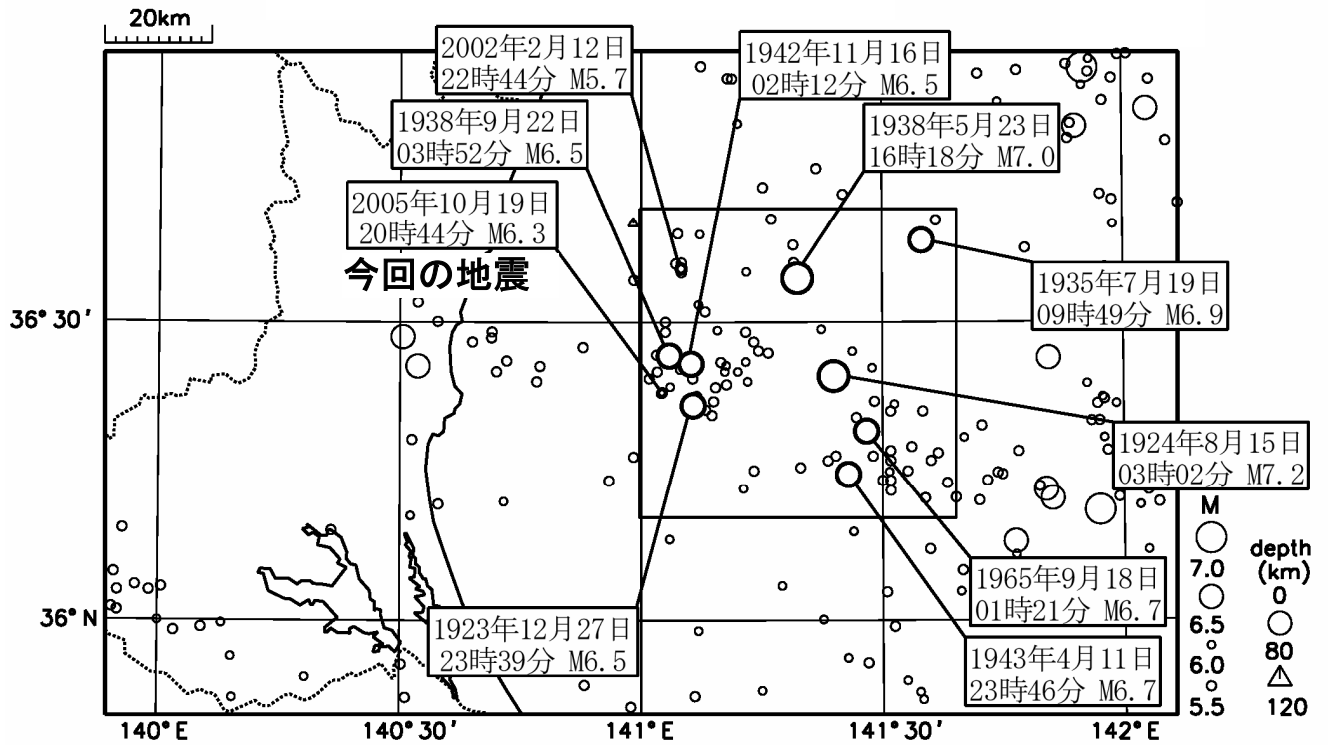
上図の矩形内の断面図(M2.0以上の地震を示す)



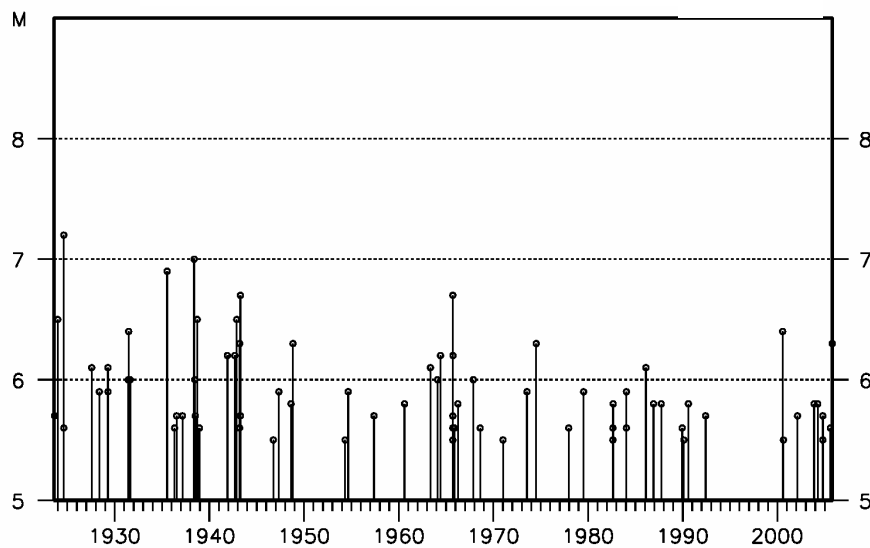
2005年10月19日 茨城県沖の地震 (周辺の過去の地震活動)

震央分布図

(1923年8月～2005年10月19日21時、深さ120km以浅、M6.0以上)

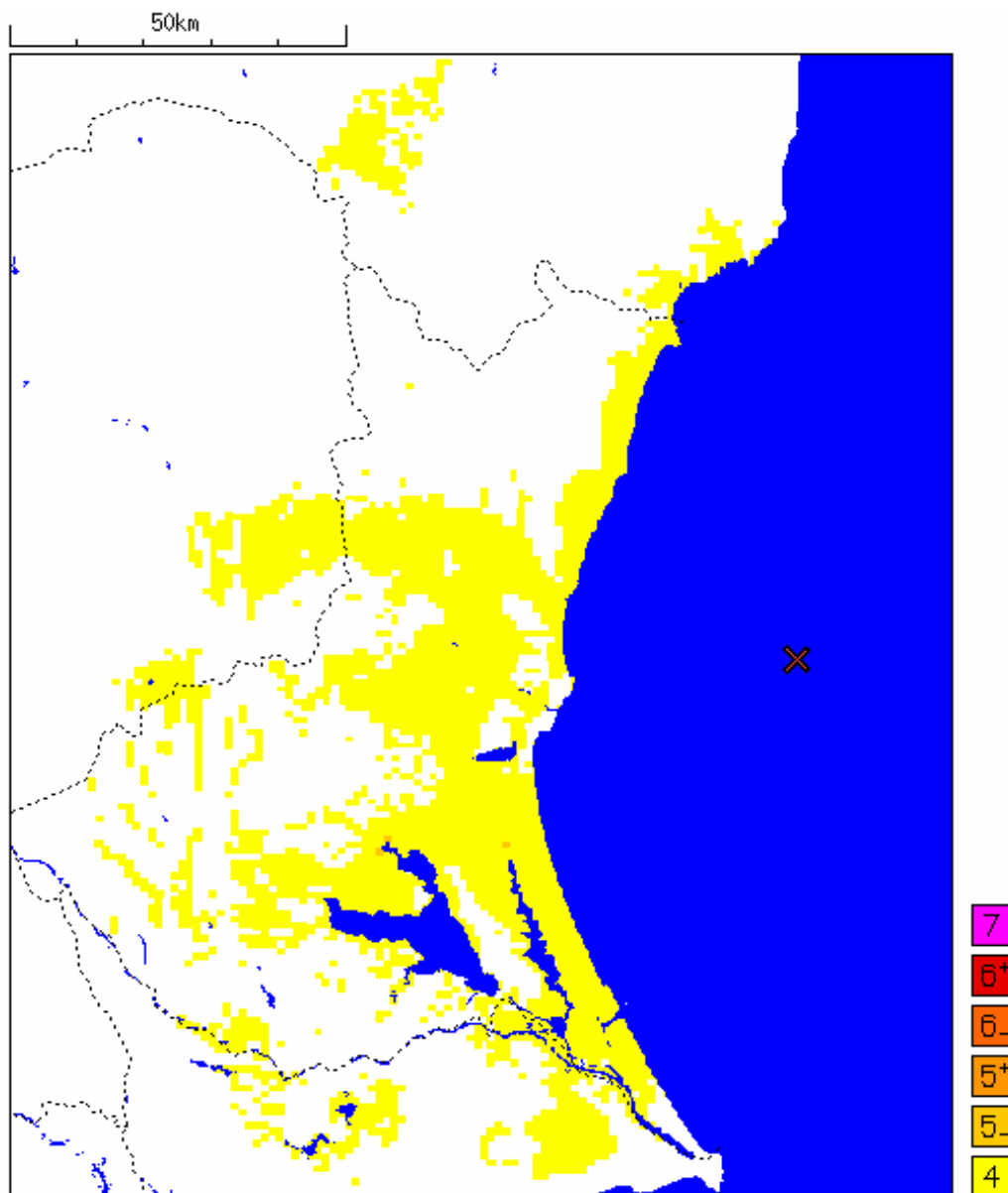


上図の四角で区切った領域内の地震活動経過図



横軸は時間、縦軸はマグニチュード。縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

2005年10月19日20時44分頃の茨城県沖の地震（M6.3：深さ48km：）の推計震度分布図



〔解説〕

この地震により、茨城県を中心に震度4の分布が広がっています。

<推計震度分布図利用の留意事項>

個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目してご利用下さい。